

随 想

日本にきてよかった

張 宇

日本に来てから、もう四年半になりました。何時の間にか時間は流れてしまったようです。この間に、苦しい闘いがあり、酸っぱく、甘く、苦しく、楽しい味がそこには揃っていて、本当にいろいろ体験してきました。

四年前の私は、まったく知らない異国にやってきて、生活を始めました。周りは、私にとってはすべて目新しいもので、これまで経験もしたことのないものばかりでした。最初一年間、初めての留学生活は家族や友達と離れての寂しさもありましたが、日本での生活に早く慣れなくてはならないと必死に日本語を勉強しました。授業のため、名古屋大学の鶴舞と東山キャンパスの間をほぼ毎日通っていました。ほかの時間もほとんど図書館で過ごしていました。その結果、苦労のかわりあって、なんとか困難を無事に解決することができるようになりました。日本語が少し上手になってくるにつれ、友達も増えてきました。その時は、今まで感じたことがなかったような満足感がありました。

二年目に入ると、試験に受かって、名古屋大学医学研究科の大学院生となり、医学について本格的な修練が始まりました。それから数年間に、私はMRIに関する研究をし、世界に最先端な画像診断装置に触れ、母国では体験できないMRSやfMRIなど様々な知識を修得することができました。そのうち、恩師からの学問の指導や、経済的な援助、教室の先生方々からの励ましをいただき、多くの日本の人々に暖かく受け入れていただいて、研究を順調に進めることができました。今年には無事に論文を発表することができました。来年の三月は、博士課程の修了の予定ですが、研究テーマの終了でなく、画像診断、特にMRIに関連する研究を続けてゆこうと思っています。

日本に来て、一人暮らし時の孤独感、言葉が通じない時の困惑感、経済的困苦の不安感、研究途中で襲う挫折感を時々感じることもあり、それに対し、明るく振り舞い、前向きで、人を助けたりしていくうちに、自分が何とかかなりそ

うな気分がしてきました。日本に来て良かったという気持ちをずっと持っています。

学業を修得しただけでなく、名古屋大学や様々な国際交流協会のおかげで、私はいろいろな交流活動に参加するようになりました。春には花見、秋には紅葉を見に行ったり、日本人と一緒にスキー旅行やキャンプもしたりすることにより、日本らしい文化を接触し、日本は世界で最も優れた国だということの理由を少しずつ分かってきました。

日本に四年間住んでみて、私は信じられないほど和食が好きになりました。和食というのは、自然な味を重視していて、新鮮な物をそのまま食べると自然な味が一番美味しいことです。生のものを食べると、水や空気や緑といった自然の恵みを感じられ、これが和食の本当のおいしさではないかと思います。そう思うようになってから、日本の料理を楽しむようになってきました。

私は生まれてから、母国の両親や家族、それを取り巻く人々や町などに生まれ、身近な人や町に対して優しい心情を抱きました。そして四年半前から日本に来て、名古屋大学医学部放射線科の日本人の先生方から、臨床的医学研究の修練を受け、自分の長年の念願、研究生涯の最初の一步を踏み出しました。そこで、日本の文化、教育に触れ、視野が広げられ、自分も徐々に成長してきました。この自分の成長、育成に大きな役割を果たした町、人々は私にとって第二の故郷になりました。私の胸の中に、日本人への感謝の気持ちが一杯あります。長い間大変お世話になりました。心から感謝を申し上げます。

(名古屋大学大学院医学研究科学生)